

第2章 食品製造業の品目別生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

(参考) 主要品目の生産量の推移

(平成26年～令和7年)

利用者のために

1 食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の収集

(1)調査の対象

食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の把握については、下表のとおり、各部門の品目に関して標本調査及び既存調査資料の収集により行っている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存調査資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査資料を収集し、活用したものである。

部 門	本調査の対象品目 (標本調査)	既存調査資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産加工品	はっ酵乳・乳酸菌飲料類	食肉加工品、食肉缶・びん詰、牛乳・乳製品
2 水産加工品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産加工品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	野菜缶・びん詰、果実缶・びん詰、ジャム類、 トマト加工品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん類、マカロニ類 プレミックス、パン粉、でん粉	
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	みそ、しょうゆ等	マヨネーズ、ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理冷凍食品、冷凍菓子、調理缶・びん詰、 レトルトパウチ
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、焼酎、ビール、 果実酒、スピリッツ、リキュール、雑酒
12 その他の食品		包装もち、植物油粕

(2)標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 550 社
調査時期	令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月
調査方法	郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数	293 社 (回答率約 53.3%)

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1) 食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、「令和3年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらましを行い、部門及び全体の推計を行う(ふくらましウェイト方式)。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2) 食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、「令和3年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3) 食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、「令和3年経済センサス-活動調査(経済産業省)」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1) 指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にそれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである(ラスパイレス算式)。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は令和2年であり、基準数量は対象品目ごとの令和2年月平均生産数量である。指数値は令和2年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3)用語の解説

①暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

②寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\text{対前年増減寄与度} = \text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト} \\ \div \left(\text{総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト} \right) \times 100.0$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	±1%未満
わずかに	：	±1～3%未満
やや	：	±3～6%未満
かなりの程度	：	±6～11%未満
かなり大きく	：	±11～16%未満
大幅に	：	±16%以上

食品製造業 総合

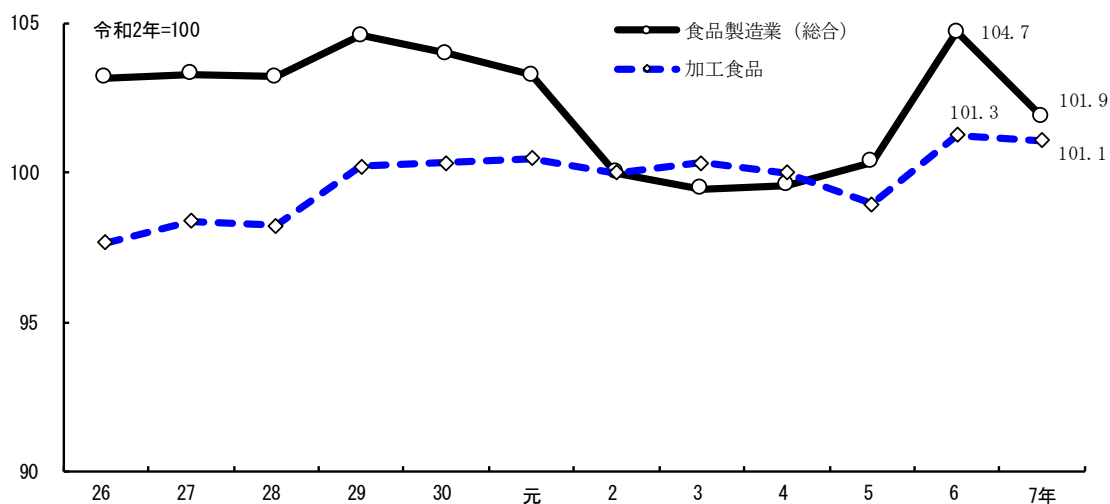
(1)生産指数

令和7年の食品製造業（総合）の生産指数は101.9で、対前年比▲2.7%とわずかに低下

令和7年の食品製造業（総合）の生産指数（令和2年=100、暫定値）は101.9で、対前年比▲2.7%とわずかに低下した。うち、飲料、酒類を除く加工食品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は101.1で、対前年比▲0.2%と前年並みとなった。なお、近年の食品製造業（総合）の生産指数の推移についてみると、令和3年以降6年までは上昇傾向で推移していたが、7年は低下に転じている（図2-1）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品がかなりの程度上昇し、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品及びその他食品がわずかに上昇した。一方、酒類はかなり大きく低下し、農産食料品及び飲料はやや低下し、畜産食料品及び調理食品はわずかに低下した。また、砂糖、調味料及び菓子は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の生産指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、水産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品はプラスに、畜産食料品、農産食料品、調味料、飲料、調理食品及び酒類はマイナスであった（図2-2、表2-1）。

図2-1 食品製造業の生産指数の推移



注：加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの（以下同様）。

図 2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度

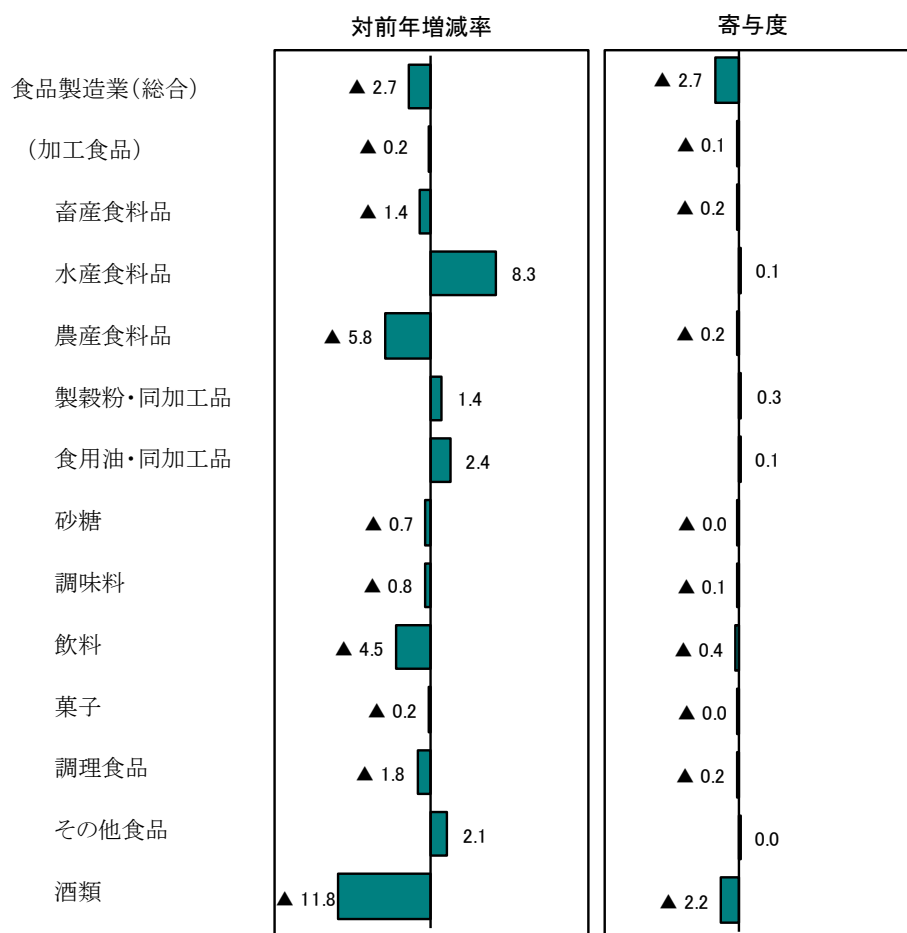


表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)					対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
		3年	4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
食品製造業(総合)	10,000.0	99.5	99.6	100.4	104.7	101.9	0.1	0.8	4.4	▲ 2.7	▲ 2.7
(加工食品)	7,455.1	100.3	100.0	99.0	101.3	101.1	▲ 0.3	▲ 1.0	2.3	▲ 0.2	▲ 0.1
畜産食料品	1,645.8	101.2	100.7	97.6	98.2	96.8	▲ 0.4	▲ 3.1	0.6	▲ 1.4	▲ 0.2
水産食料品	226.5	100.5	98.0	86.3	83.6	90.5	▲ 2.4	▲ 12.0	▲ 3.1	8.3	0.1
農産食料品	368.2	100.7	101.1	97.8	94.4	88.8	0.3	▲ 3.3	▲ 3.5	▲ 5.8	▲ 0.2
製穀粉・同加工品	2,348.5	99.3	98.5	99.0	101.0	102.5	▲ 0.8	0.6	2.0	1.4	0.3
食用油・同加工品	379.2	100.1	96.5	89.4	92.2	94.5	▲ 3.5	▲ 7.4	3.2	2.4	0.1
砂糖	15.8	101.8	104.2	102.5	102.7	102.0	2.4	▲ 1.6	0.2	▲ 0.7	▲ 0.0
調味料	783.5	101.1	98.0	99.9	100.9	100.1	▲ 3.0	1.9	1.0	▲ 0.8	▲ 0.1
飲料	990.9	96.9	97.0	97.4	100.1	95.6	0.1	0.5	2.7	▲ 4.5	▲ 0.4
菓子	440.7	100.0	97.9	95.7	95.3	95.1	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.0
調理食品	1,166.4	100.7	105.0	107.2	117.3	115.2	4.3	2.1	9.4	▲ 1.8	▲ 0.2
その他食品	80.4	102.4	103.7	100.5	100.3	102.4	1.3	▲ 3.2	▲ 0.1	2.1	0.0
酒類	1,553.9	96.9	99.3	108.9	124.3	109.5	2.5	9.6	14.1	▲ 11.8	▲ 2.2

(2)出荷指数

令和7年の食品製造業（総合）の出荷指数は100.4で、対前年比▲3.9%とやや低下

令和7年の食品製造業（総合）の出荷指数（令和2年=100）は100.4で、対前年比▲3.9%とやや低下した。うち、飲料、酒類を除く加工食品の出荷指数（令和2年=100）は100.1で、対前年比▲0.5%と前年並みとなった（図2-3）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品がかなりの程度上昇し、調味料がわずかに上昇した。一方、酒類はかなり大きく低下し、飲料がかなりの程度低下し、農産食料品がやや低下し、畜産食料品及び調理食品はわずかに低下した。また、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、砂糖、菓子及びその他食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の出荷指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、水産食料品及び製穀粉・同加工品はプラスに、畜産食料品、農産食料品、飲料、調理食品及び酒類はマイナスであった（図2-4、表2-2）。

図2-3 食品製造業の出荷指数の推移

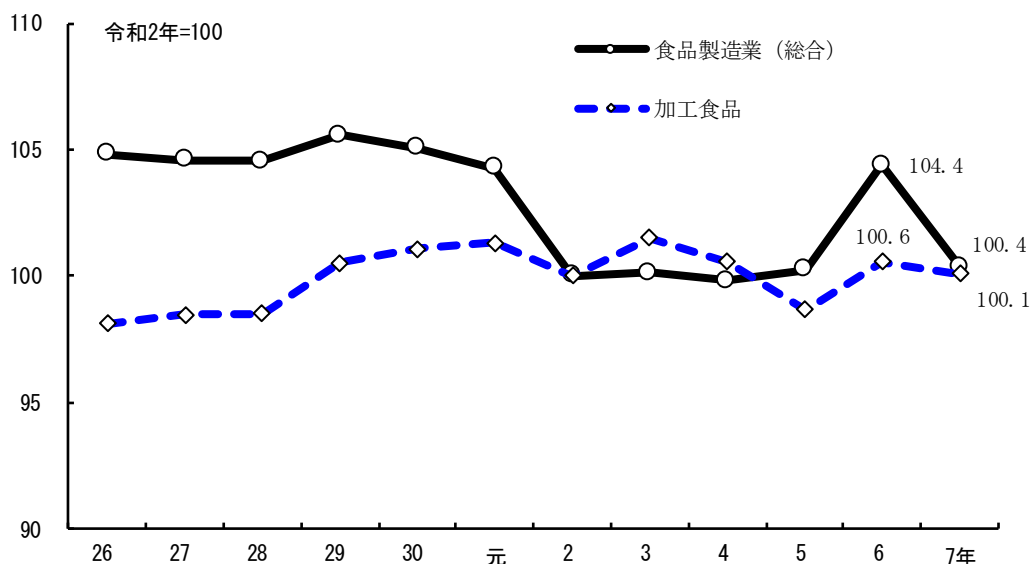


図 2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度

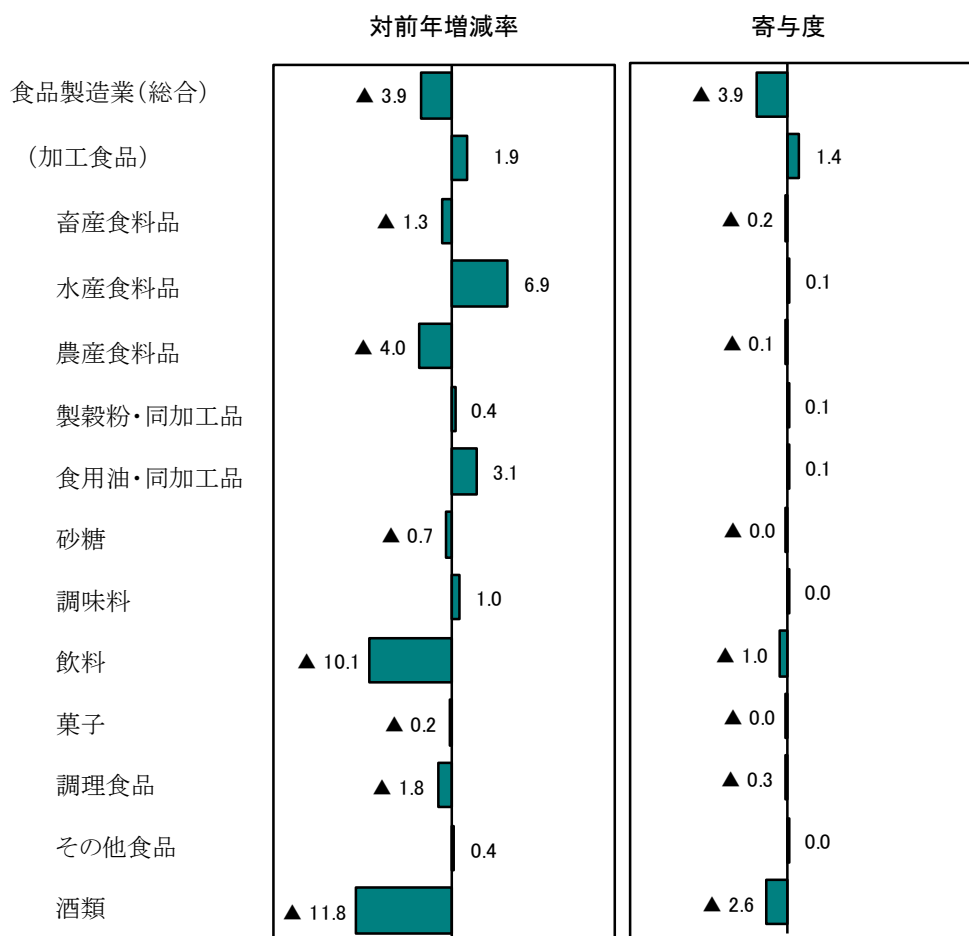


表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	7年/6年
食品製造業(総合)	10,000.0	99.8	100.2	104.4	100.4	▲ 0.3	0.4	4.2	▲ 3.9	▲ 3.9
(加工食品)	7,134.3	100.6	98.7	100.6	100.1	▲ 0.9	▲ 1.9	1.9	▲ 0.5	▲ 0.3
畜産食料品	1,941.3	101.0	97.6	98.3	97.1	▲ 0.4	▲ 3.3	0.7	▲ 1.3	▲ 0.2
水産食料品	267.2	97.9	86.3	83.7	89.5	▲ 2.5	▲ 11.8	▲ 3.0	6.9	0.1
農産食料品	280.3	103.1	99.9	92.2	88.5	▲ 0.1	▲ 3.1	▲ 7.7	▲ 4.0	▲ 0.1
製穀粉・同加工品	2,007.4	98.8	98.1	98.3	98.7	▲ 4.1	▲ 0.7	0.2	0.4	0.1
食用油・同加工品	447.3	96.0	89.7	92.5	93.1	▲ 4.2	▲ 6.5	3.1	0.7	0.0
砂糖	18.6	104.2	102.5	102.7	102.0	2.4	▲ 1.6	0.2	▲ 0.7	▲ 0.0
調味料	181.7	99.4	96.6	96.3	97.2	0.4	▲ 2.8	▲ 0.3	1.0	0.0
飲料	1,032.8	95.4	95.8	95.7	86.0	▲ 1.0	0.4	▲ 0.1	▲ 10.1	▲ 1.0
菓子	519.8	97.9	95.7	95.3	95.1	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.0
調理食品	1,375.9	105.0	107.2	117.3	115.2	4.3	2.1	9.4	▲ 1.8	▲ 0.3
その他食品	94.8	103.6	100.2	99.6	99.9	1.4	▲ 3.2	▲ 0.6	0.4	0.0
酒類	1,832.9	99.3	108.9	124.3	109.5	2.5	9.6	14.1	▲ 11.8	▲ 2.6

(3)在庫指数

令和7年の食品製造業（総合）の在庫指数は102.3で、対前年比▲3.3%とやや低下

令和7年の食品製造業（総合）の在庫指数（令和2年=100）は102.3で、対前年比▲3.3%とやや低下した。うち、飲料を除く加工食品の在庫指数（令和2年=100）は99.5で、対前年比▲4.7%とやや低下した（図2-5）。

部門別に対前年比をみると、食用油・同加工品及びその他食品はかなり大きく低下し、畜産食料品はかなりの程度低下し、飲料はわずかに低下した。また、水産食料品、農産食料品及び製穀粉・同加工品は前年並みとなった（図2-6、表2-3）。

図2-5 食品製造業の在庫指数の推移

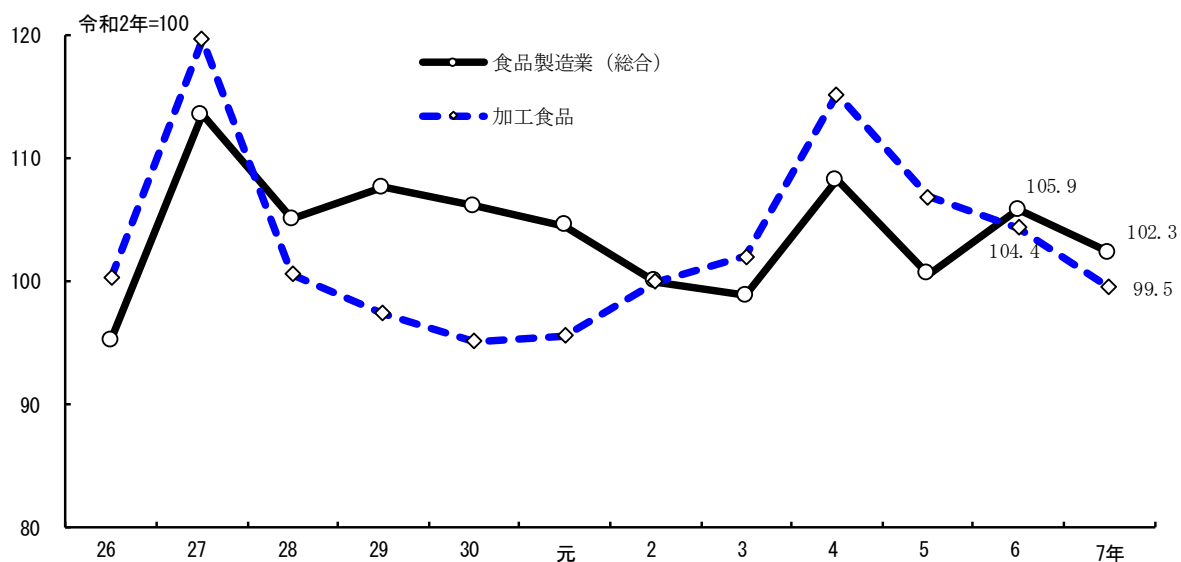


図 2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度

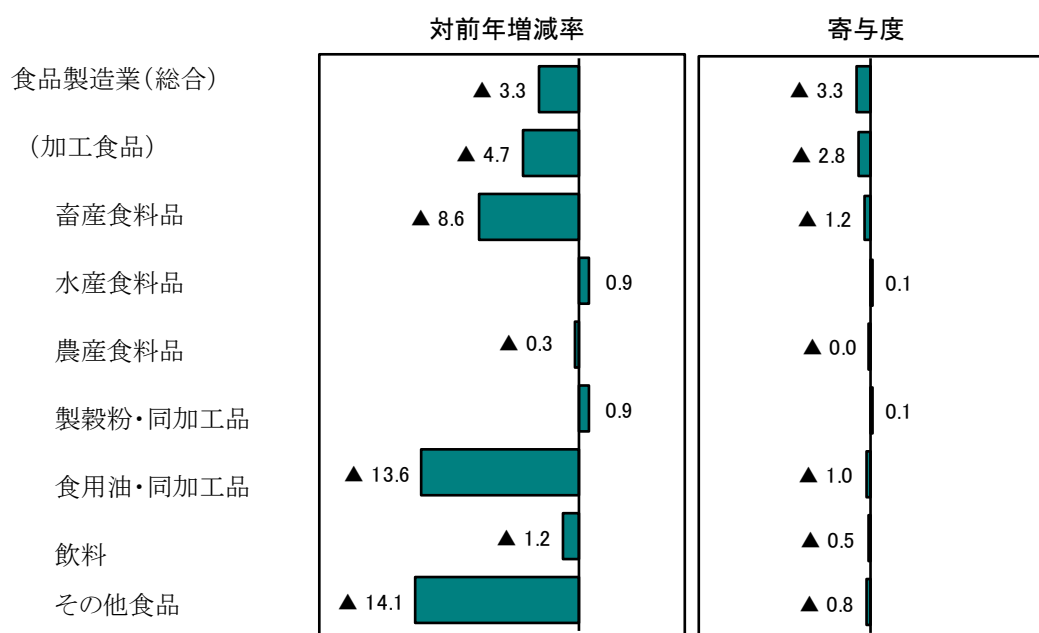


表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

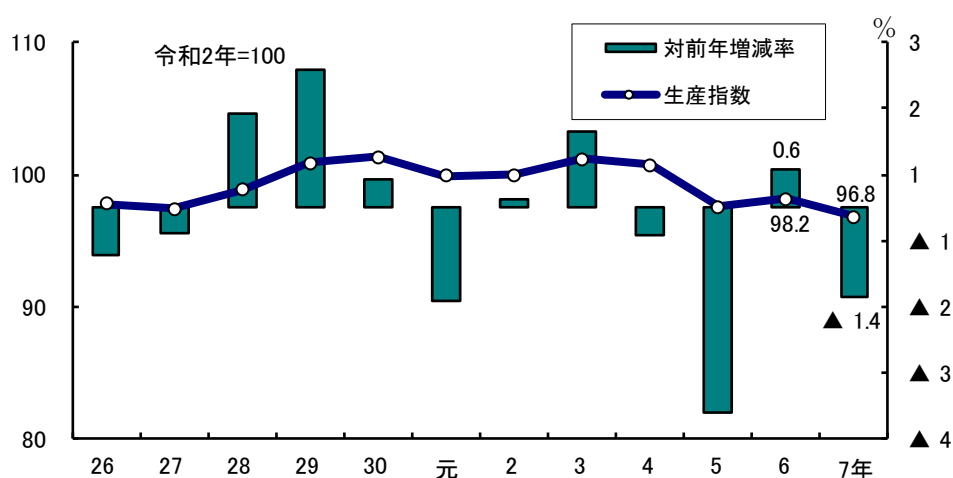
	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	7年/6年
食品製造業(総合)	10,000.0	108.3	100.6	105.9	102.3	9.5	▲ 7.1	5.2	▲ 3.3	▲ 3.3
(加工食品)	6,104.6	115.3	106.9	104.4	99.5	12.9	▲ 7.3	▲ 2.3	▲ 4.7	▲ 2.8
畜産食料品	1,464.5	123.6	107.1	103.5	94.6	18.4	▲ 13.3	▲ 3.4	▲ 8.6	▲ 1.2
水産食料品	1,328.0	128.0	128.5	125.3	126.4	17.4	0.4	▲ 2.5	0.9	0.1
農産食料品	1,021.6	99.7	98.0	100.1	99.7	0.0	▲ 1.7	2.1	▲ 0.3	▲ 0.0
製穀粉・同加工品	889.0	100.9	94.5	90.8	91.6	▲ 0.5	▲ 6.3	▲ 3.9	0.9	0.1
食用油・同加工品	957.5	121.1	99.1	82.0	70.9	32.3	▲ 18.2	▲ 17.2	▲ 13.6	▲ 1.0
飲料	3,895.4	97.3	90.7	108.1	106.8	3.7	▲ 6.7	19.1	▲ 1.2	▲ 0.5
その他食品	443.9	101.6	103.6	130.6	112.2	▲ 1.4	2.0	26.1	▲ 14.1	▲ 0.8

1 畜産食料品

令和7年の畜産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は96.8で、対前年比▲1.4%とわずかに減少した。近年は横ばいから低下傾向で推移している（図2-7）。

対前年比を品目別にみると、乳製品がわずかに上昇した。一方、食肉加工品、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はやや低下し、飲用牛乳等はわずかに低下した。また、食肉缶・びん詰は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、乳製品はプラスであり、一方、食肉加工品、飲用牛乳等、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はマイナスであった（図2-8、表2-4）。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品はやや低下、ハム類、ベーコン類、ソーセージ類のいずれも低下

食肉加工品の生産量は48万9千トンで、生産指数は対前年比▲3.8%とやや低下した。内訳についてみると、ハム類の生産量は9万1千トンで、生産指数は対前年比▲5.8%とやや低下し、ベーコン類は生産量が8万2千トンで、生産指数は対前年比▲8.1%とかなりの程度低下した。ソーセージ類は生産量が29万6千トンで、生産指数は対前年比▲1.9%とわずかに低下した。

飲用牛乳等はわずかに低下、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はやや低下

飲用牛乳等の生産量は339万5千klで、生産指数は対前年比▲1.3%とわずかに低下した。乳飲料は98万2千klで、生産指数は対前年比▲4.3%とやや低下した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料は170万8千klで、生産指数は対前年比▲3.9%とやや低下した。

乳製品類はわずかに上昇、バター及び脱脂粉乳は上昇、チーズは前年並み

乳製品類の生産量は58万1千トンで、生産指数は対前年比1.3%とわずかに上昇した。内訳についてみると、バターの生産量は7万7千トンで、生産指数は対前年比7.4%とかなりの程度上昇した。脱脂粉乳も生産量は16万1千トンで、生産指数が対前年比5.3%とやや上昇し

た。チーズの生産量は 14 万 9 千トンで、生産指数は対前年比 0.6%と前年並みとなった。

図 2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

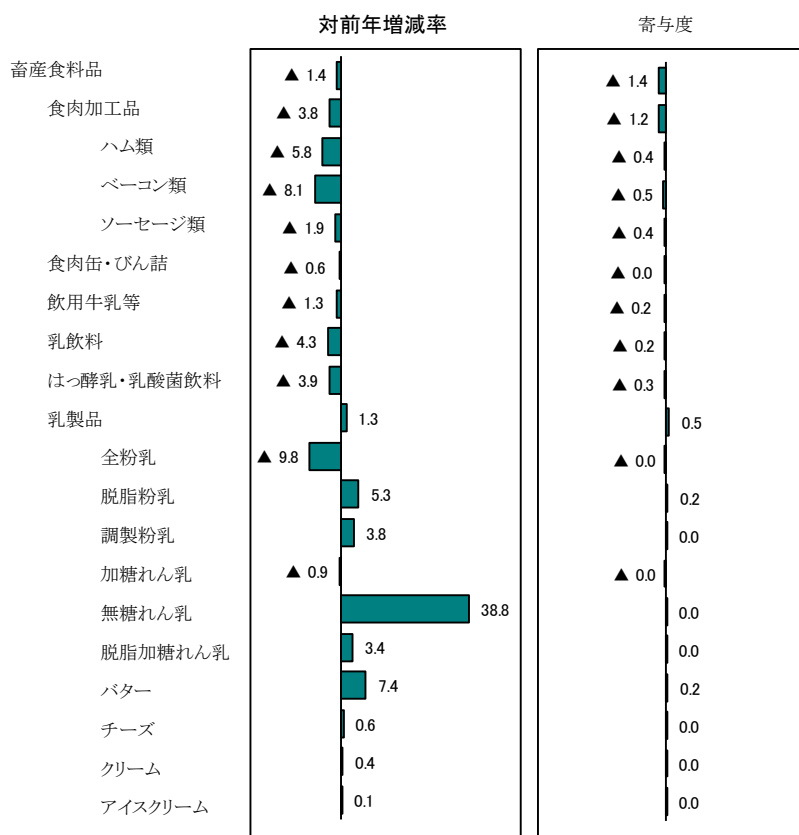


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

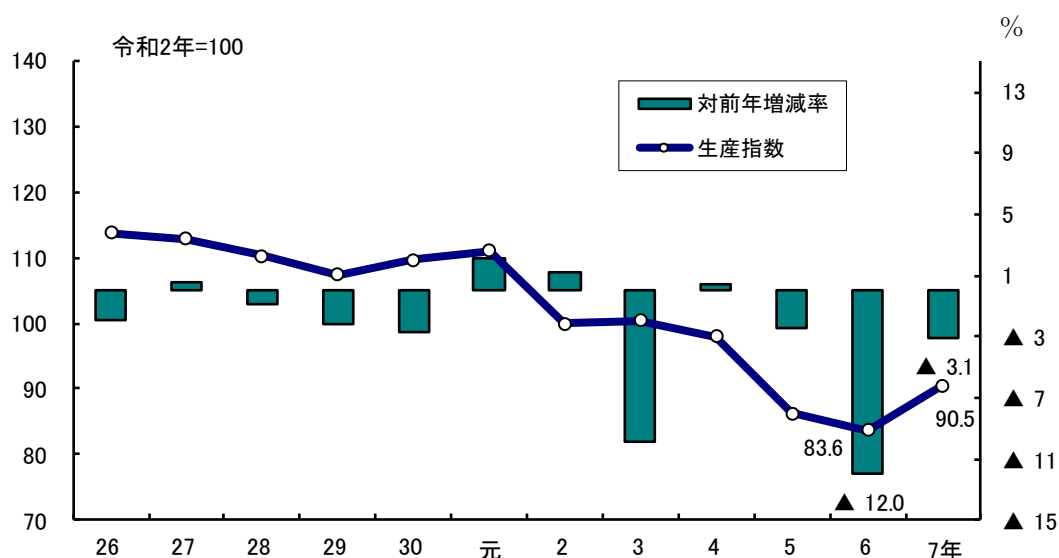
品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
畜産食料品	1,645.8	100.7	97.6	98.2	96.8	▲ 0.4	▲ 3.1	0.6	▲ 1.4	▲ 1.4
食肉加工品	540.2	97.2	95.4	92.2	88.7	▲ 2.1	▲ 1.8	▲ 3.4	▲ 3.8	▲ 1.2
ハム類	114.8	96.3	93.5	86.0	81.0	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 8.1	▲ 5.8	▲ 0.4
ベーコン類	100.3	97.7	93.3	90.5	83.1	▲ 1.9	▲ 4.5	▲ 3.0	▲ 8.1	▲ 0.5
ソーセージ類	325.2	97.3	96.8	94.9	93.0	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 1.9	▲ 0.4
食肉缶・びん詰	10.1	85.6	79.0	75.6	75.1	4.5	▲ 7.7	▲ 4.4	▲ 0.6	▲ 0.0
飲用牛乳等	311.5	99.7	97.0	96.3	95.0	▲ 0.3	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 1.3	▲ 0.2
乳飲料	71.4	94.3	96.5	92.6	88.7	▲ 0.7	2.3	▲ 4.0	▲ 4.3	▲ 0.2
はっ酵乳・乳酸菌飲料	115.7	97.6	98.7	99.0	95.1	▲ 1.1	1.2	0.2	▲ 3.9	▲ 0.3
乳製品	596.8	106.1	100.0	105.4	106.8	1.0	▲ 5.7	5.4	1.3	0.5
全粉乳	3.7	110.5	116.0	124.2	112.0	11.9	4.9	7.1	▲ 9.8	▲ 0.0
脱脂粉乳	57.1	113.0	103.1	109.3	115.1	2.1	▲ 8.7	6.0	5.3	0.2
調製粉乳	11.5	100.1	106.1	94.6	98.2	8.1	5.9	▲ 10.8	3.8	0.0
加糖れん乳	12.4	102.6	99.5	99.8	99.0	1.5	▲ 3.0	0.3	▲ 0.9	▲ 0.0
無糖れん乳	0.2	82.3	107.7	83.5	115.9	▲ 14.9	30.9	▲ 22.4	38.8	0.0
脱脂加糖れん乳	1.4	97.0	97.4	98.8	102.1	▲ 0.6	0.4	1.4	3.4	0.0
バター	51.3	104.9	94.1	100.2	107.7	2.4	▲ 10.3	6.4	7.4	0.2
チーズ	139.3	100.2	93.0	93.0	93.5	▲ 4.0	▲ 7.1	▲ 0.1	0.6	0.0
クリーム	71.2	109.1	106.6	109.8	110.2	0.3	▲ 2.3	3.0	0.4	0.0
アイスクリーム	248.7	107.7	102.1	111.9	112.0	3.0	▲ 5.1	9.6	0.1	0.0

2 水産食料品

令和7年の水産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は90.5で、対前年比8.3%とかなりの程度上昇した。令和6年には生産が大きく落ち込んだが、令和7年は上昇した（図2-9）。

対前年比を品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類はかなり大きく上昇した。一方、水産缶・びん詰はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ちくわかまぼこ類はプラスであった（図2-10、表2-5）。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類は大幅に上昇、水産缶・びん詰は前年並み

ちくわ・かまぼこ類の生産量は39万8千トンで、生産指数は対前年比11.2%とかなり大きく上昇した。一方、水産缶・びん詰の生産量は7万2千トンで、生産指数は対前年比▲2.2%とわずかに低下した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

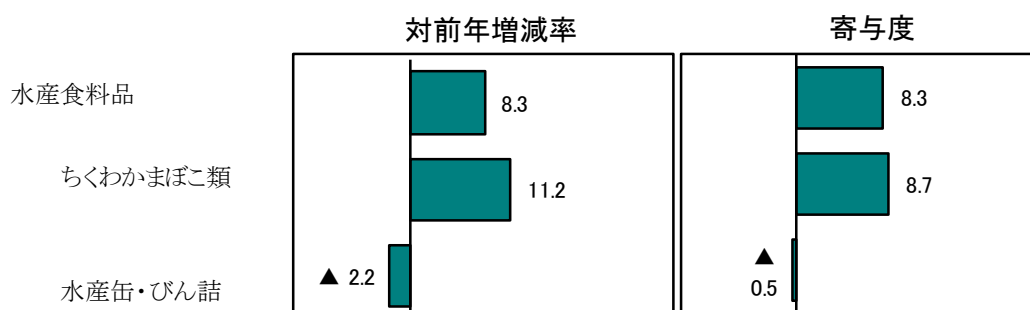


表 2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

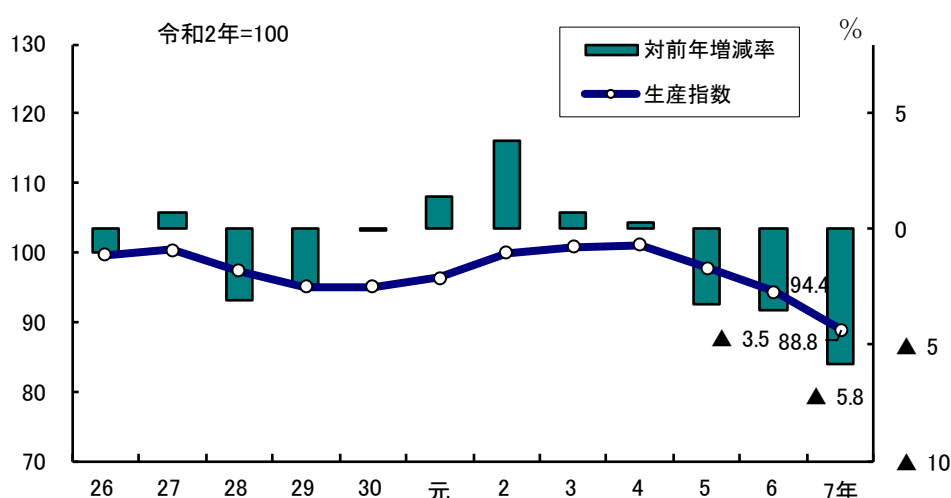
年次 品目	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
水産食料品	226.5	98.0	86.3	83.6	90.5	▲ 2.4	▲ 12.0	▲ 3.1	8.3	8.3
ちくわ・かまぼこ類	169.7	100.6	89.2	87.2	97.0	▲ 2.3	▲ 11.3	▲ 2.2	11.2	8.7
水産缶・びん詰	56.8	90.5	77.8	72.9	71.3	▲ 2.9	▲ 14.0	▲ 6.3	▲ 2.2	▲ 0.5

3 農産食料品

令和7年の農産食料品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は88.8で、対前年比▲5.8%とやや低下した。なお、近年の推移は、平成30年以降上昇傾向で推移していたが、令和5年以降低下傾向で推移している（図2-11）。

対前年比を品目別にみると、野菜・果実漬物はやや低下した。農産缶・びん詰はわずかに低下し、トマト加工品はかなりの程度低下した。また、乾燥野菜は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、野菜・果実漬物、農産缶・びん詰及びトマト加工品がマイナスであった（図2-12、表2-6）。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物はやや低下

野菜・果実漬物の生産量は70万5千トンで、生産指数は対前年比▲4.8%とやや低下した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は8万6千トンで、生産指数は対前年比▲12.8%とかなり大きく低下、酢漬類の生産量は10万8千トンで、生産指数は対前年比▲4.1%とやや低下、浅漬類の生産量は13万6千トンで、生産指数は対前年比▲3.2%とやや低下し、醤油漬類の生産量は30万4千トンで、生産指数は対前年比▲1.1%とわずかに低下した。

農産缶・びん詰はわずかに低下

農産缶・びん詰の生産量は10万1千トンで、生産指数は対前年比▲1.2%とわずかに低下した。内訳についてみると、野菜缶・びん詰が3万4千トンで、生産指数は対前年比▲2.6%とわずかに低下した。また、果実缶・びん詰は3万9千トンで、生産指数は対前年比0.8%と前年並みとなった。ジャム類の生産量は2万8千トンで、生産指数は対前年比▲1.4%とわずかに低下した。

トマト加工品はかなりの程度低下

トマト加工品の生産量は 8 万 9 千トンで、生産指数は対前年比▲9.4%とかなりの程度低下した。トマトケチャップ、トマトピューレ及びその他トマトの生産量がいずれも前年を下回ったため全体でもかなりの程度低下した。

図 2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

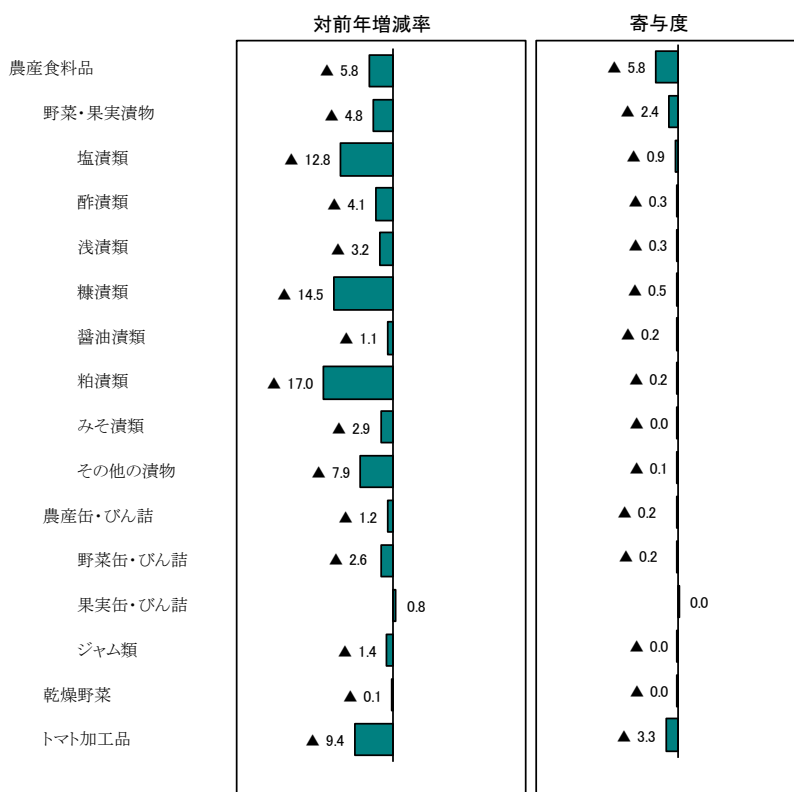


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

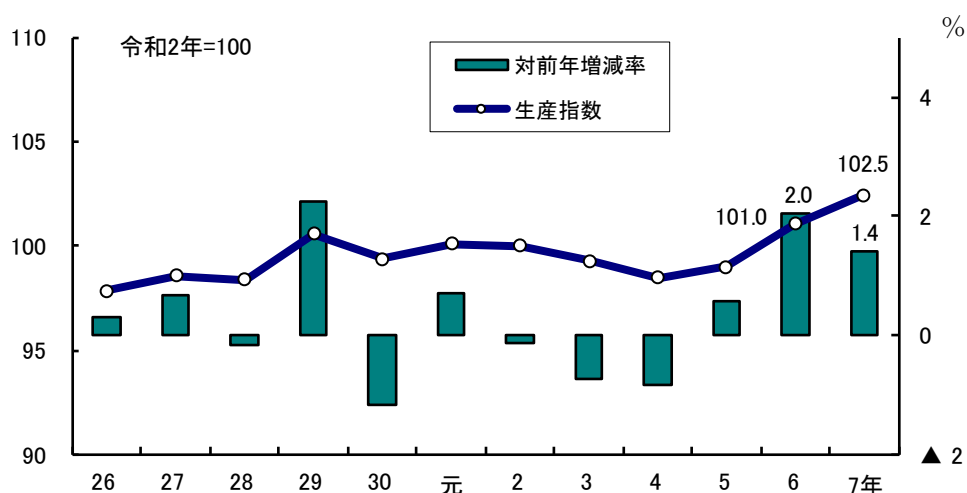
品目	年次 ウエイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
農産食料品	368.2	101.1	97.8	94.4	88.8	0.3	▲ 3.3	▲ 3.5	▲ 5.8	▲ 5.8
野菜・果実漬物	183.3	105.6	103.2	95.2	90.7	0.5	▲ 2.3	▲ 7.7	▲ 4.8	▲ 2.4
塩漬類	25.8	97.4	95.9	90.1	78.6	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 6.0	▲ 12.8	▲ 0.9
酢漬類	25.0	113.2	105.7	106.0	101.7	10.1	▲ 6.7	0.4	▲ 4.1	▲ 0.3
浅漬類	33.9	107.0	105.3	97.8	94.7	4.2	▲ 1.5	▲ 7.2	▲ 3.2	▲ 0.3
糠漬類	10.8	125.8	126.9	101.0	86.4	11.2	0.8	▲ 20.4	▲ 14.5	▲ 0.5
醤油漬類	78.8	101.9	100.2	92.0	91.0	▲ 5.4	▲ 1.7	▲ 8.2	▲ 1.1	▲ 0.2
粕漬類	3.9	105.9	101.5	78.7	65.3	2.8	▲ 4.2	▲ 22.4	▲ 17.0	▲ 0.2
みそ漬類	2.3	101.7	96.3	86.3	83.8	▲ 7.4	▲ 5.3	▲ 10.3	▲ 2.9	▲ 0.0
その他の漬物	2.8	125.9	124.6	115.6	106.4	19.0	▲ 1.0	▲ 7.3	▲ 7.9	▲ 0.1
農産缶・びん詰	54.4	94.6	88.8	81.9	80.9	▲ 2.3	▲ 6.1	▲ 7.8	▲ 1.2	▲ 0.2
野菜缶・びん詰	28.3	93.0	88.0	80.3	78.2	▲ 5.1	▲ 5.3	▲ 8.7	▲ 2.6	▲ 0.2
果実缶・びん詰	19.6	95.7	88.3	80.6	81.3	1.2	▲ 7.8	▲ 8.8	0.8	0.0
ジャム類	6.4	98.3	93.8	92.9	91.5	▲ 0.3	▲ 4.6	▲ 1.0	▲ 1.4	▲ 0.0
乾燥野菜	6.6	100.0	99.3	100.1	100.0	0.0	▲ 0.7	0.8	▲ 0.1	▲ 0.0
トマト加工品	123.9	97.2	93.6	98.2	89.0	1.2	▲ 3.7	4.9	▲ 9.4	▲ 3.3

4 製穀粉・同加工品

令和7年の製穀粉・同加工品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は102.5で、対前年比1.4%とわずかに上昇した（図2-13）。

対前年比を品目別にみると、製粉・穀粉は前年並み、めん類及びパンはわずかに上昇した。また、パン粉はやや低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、製粉・穀粉、めん類及びパンがプラスであった（図2-14、表2-7）。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉は前年並み

製粉・穀粉の生産量は44万3千トンで、生産指数は対前年比0.3%と前年並みとなった。ブレミックスは同▲1.5%でわずかに低下したが、米穀粉は0.5%と前年並みとなった。

めん類はわずかに上昇

めん類の小麦粉使用量は152万2千トンで、生産指数は対前年比1.8%とわずかに上昇した。内訳についてみると、生めん類の小麦粉使用量は79万2千トンで、生産指数は対前年比3.3%とやや上昇した。乾めん類も18万9千トンで、生産指数は対前年比1.2%とわずかに上昇した。また、即席めん類は36万8千トンで、生産指数は対前年比0.8%と前年並みとなった。マカロニ類は17万3千トンで、生産指数は対前年比2.4%とわずかに上昇した。

パンはわずかに上昇

パンの小麦粉使用量は121万9千トンで、生産指数は対前年比1.8%とわずかに上昇した。内訳についてみると、食パンの小麦粉使用量は55万3千トンで、生産指数は対前年比2.0%とわずかに上昇、菓子パンは39万6千トンで、生産指数は対前年比0.0%と前年並みとなった。学給パンは2万3千トンで、生産指数は対前年比0.5%と前年並みとなった。一方、その他パンは24万7千トンで、生産指数は対前年比4.0%とやや上昇した。

図 2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

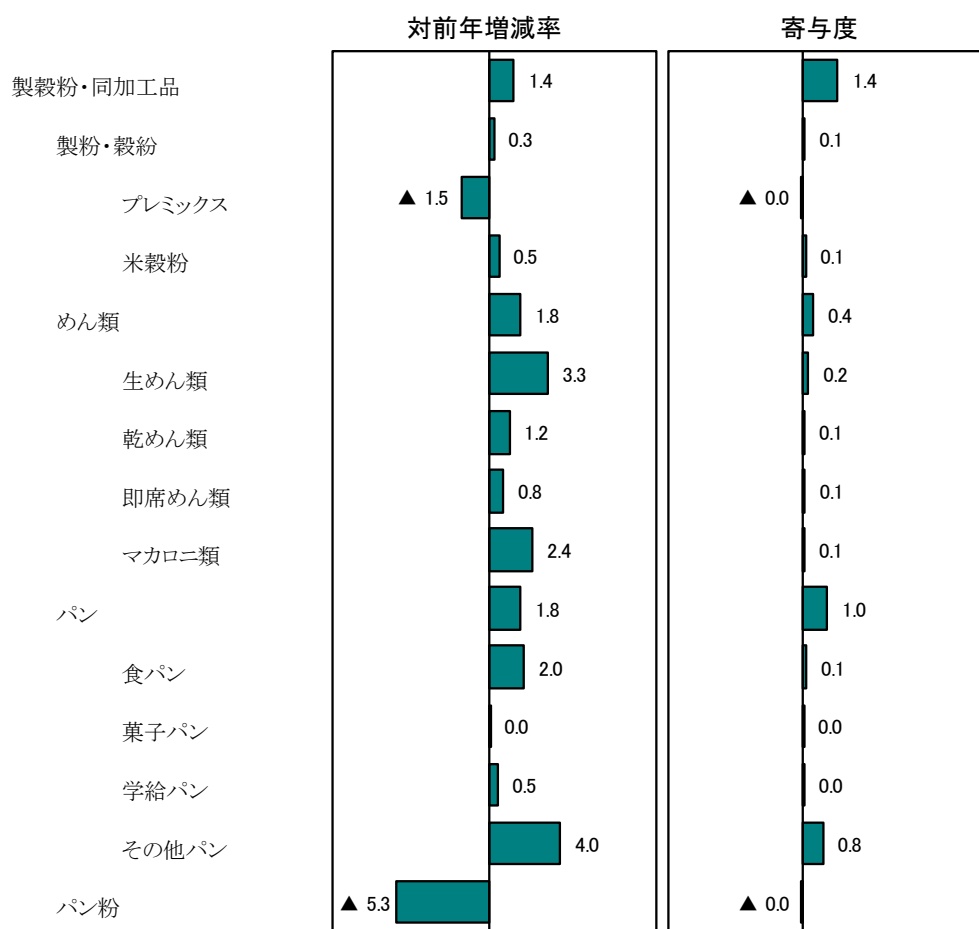


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

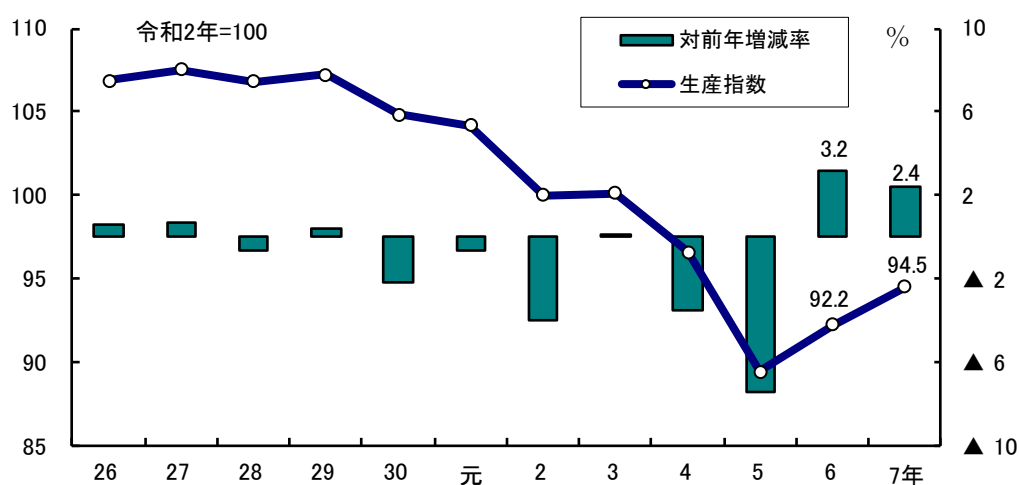
品目	年次 ウエイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 6年/5年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
製穀粉・同加工品	2,348.5	98.5	99.0	101.0	102.5	▲ 0.8	0.6	2.0	1.4	1.4
製粉・穀紛	476.6	101.0	104.7	110.2	110.5	7.2	3.7	5.3	0.3	0.1
プレミックス	71.4	97.8	94.6	95.7	94.2	▲ 1.4	▲ 3.3	1.2	▲ 1.5	▲ 0.0
米穀粉	405.2	101.5	106.5	112.8	113.4	8.8	4.9	5.9	0.5	0.1
めん類	572.0	96.5	94.9	95.1	96.8	▲ 1.6	▲ 1.7	0.2	1.8	0.4
生めん類	159.3	102.4	105.4	103.6	107.0	▲ 0.2	3.0	▲ 1.8	3.3	0.2
乾めん類	113.6	93.0	91.5	95.1	96.2	▲ 4.1	▲ 1.6	3.9	1.2	0.1
即席めん類	250.0	94.6	89.4	88.6	89.3	▲ 1.8	▲ 5.5	▲ 0.8	0.8	0.1
マカロニ類	49.0	95.2	96.7	100.9	103.4	0.4	1.6	4.4	2.4	0.1
パン	1,286.1	98.4	98.7	100.2	102.0	▲ 3.3	0.3	1.6	1.8	1.0
食パン	173.3	89.8	88.4	89.4	91.2	▲ 5.7	▲ 1.5	1.1	2.0	0.1
菓子パン	513.8	95.4	95.0	95.5	95.5	▲ 4.9	▲ 0.4	0.5	0.0	0.0
学給パン	156.3	109.3	109.4	109.1	109.6	▲ 5.4	0.1	▲ 0.3	0.5	0.0
その他パン	442.8	101.3	103.2	106.8	111.1	0.5	1.8	3.5	4.0	0.8
パン粉	13.8	101.7	102.7	104.2	98.7	▲ 0.5	1.0	1.5	▲ 5.3	▲ 0.0

5 食用油・同加工品

令和7年の食用油・同加工品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は94.5で、対前年比2.4%とわずかに上昇した。なお、近年の推移は、平成30年以降令和5年まで低下傾向で推移していたが、令和6年は上昇に転じ、令和7年も上昇した（図2-15）。

対前年比を品目別にみると、植物油脂は前年並みとなり、加工油脂はやや上昇した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、加工油脂はプラスであり、植物油脂はマイナスであった（図2-16、表2-8）。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移

植物油脂は前年並み、加工油脂はやや上昇

植物油脂の生産量は160万トンで、生産指数は対前年比▲0.3%と前年並みとなった。加工油脂の生産量は58万4千トンで、生産指数は対前年比3.8%とやや上昇した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは14万4千トンで、生産指数は対前年比2.6%とわずかに上昇した。また、ショートニングも18万5千トンで、生産指数は対前年比4.3%とやや上昇した。

図 2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

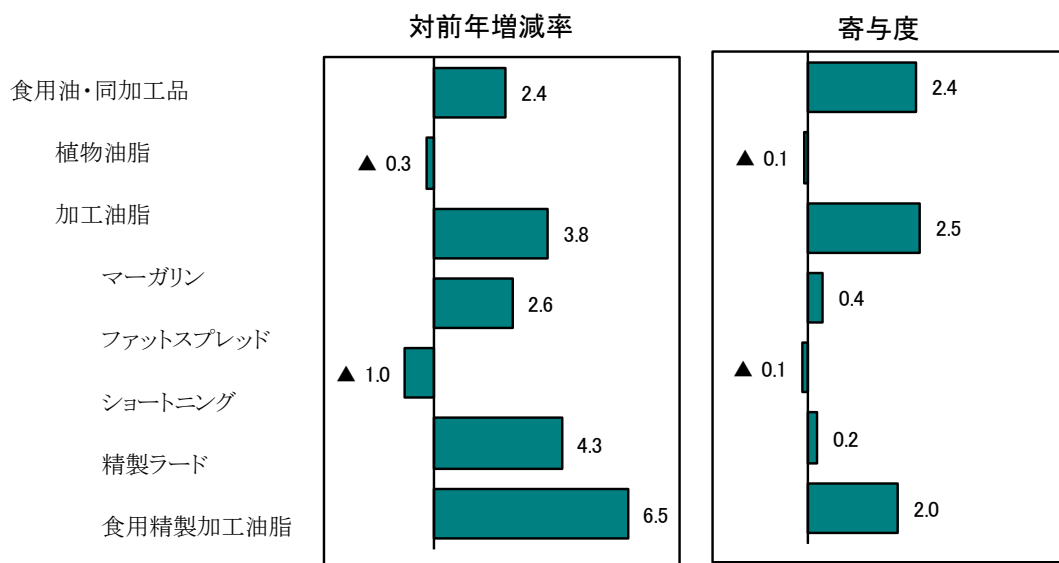


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
食用油・同加工品	379.2	96.5	89.4	92.2	94.5	▲ 3.5	▲ 7.4	3.2	2.4	2.4
植物油脂	122.4	100.1	95.7	98.4	98.1	▲ 2.6	▲ 4.4	2.8	▲ 0.3	▲ 0.1
加工油脂	256.9	94.9	86.4	89.3	92.7	▲ 4.0	▲ 9.0	3.4	3.8	2.5
マーガリン	47.5	91.8	99.2	98.7	101.3	▲ 4.6	8.0	▲ 0.5	2.6	0.4
ファットスプレッド	66.7	91.7	68.9	71.5	70.8	▲ 4.6	▲ 24.8	3.6	▲ 1.0	▲ 0.1
ショートニング	21.6	87.5	84.4	86.7	90.4	▲ 15.7	▲ 3.6	2.8	4.3	0.2
精製ラード	7.3	105.9	99.4	99.7	101.8	11.8	▲ 6.2	0.3	2.0	0.0
食用精製加工油脂	113.7	98.7	90.8	95.7	101.8	▲ 2.1	▲ 8.0	5.4	6.5	2.0

6 砂糖

令和7年の砂糖の生産指数（令和2年=100、一部推定を含む暫定値）は102.0で、対前年比▲0.7%と前年並みとなった。近年は低下傾向で推移していたが、令和2年は上昇に転じたが令和5年以降は再び減少傾向で推移している（図2-17）。

対前年比を品目別にみると、上白及び中白はわずかに上昇した。一方、白双糖及び中双糖はかなりの程度低下し、三温糖はやや低下し、グラニュー糖はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、上白糖のみプラスであり、グラニュー糖、白双糖、中双糖、中白糖及び液糖はマイナスであった（図2-18、表2-9）。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

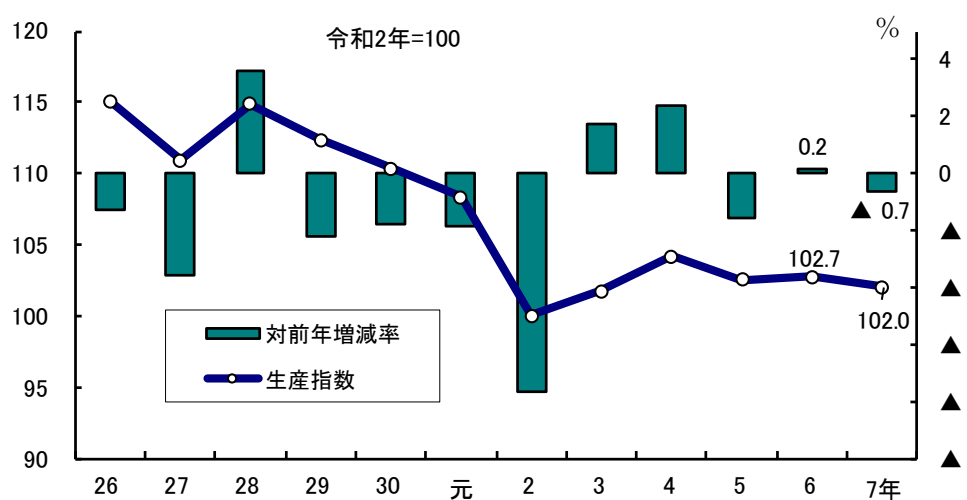


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

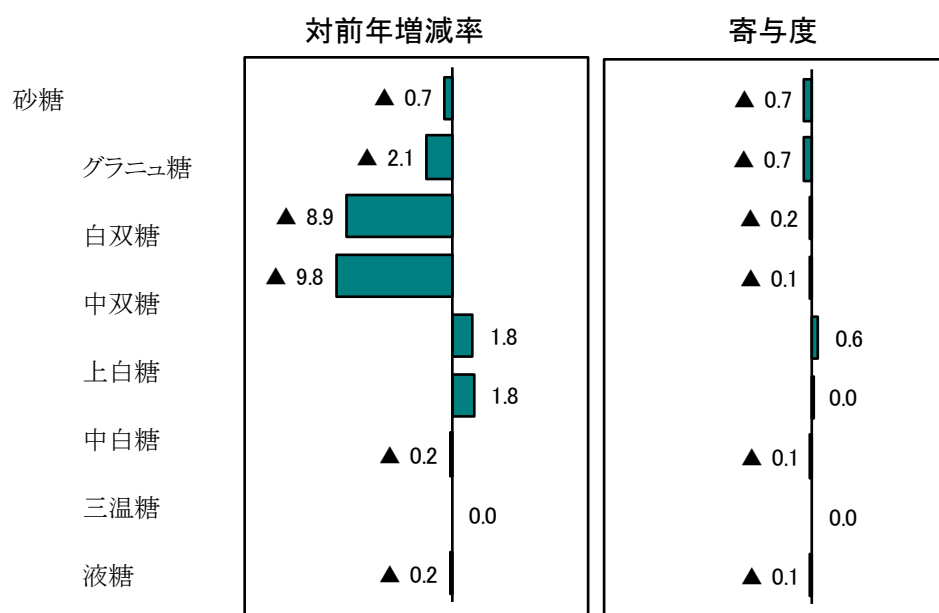


表 2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

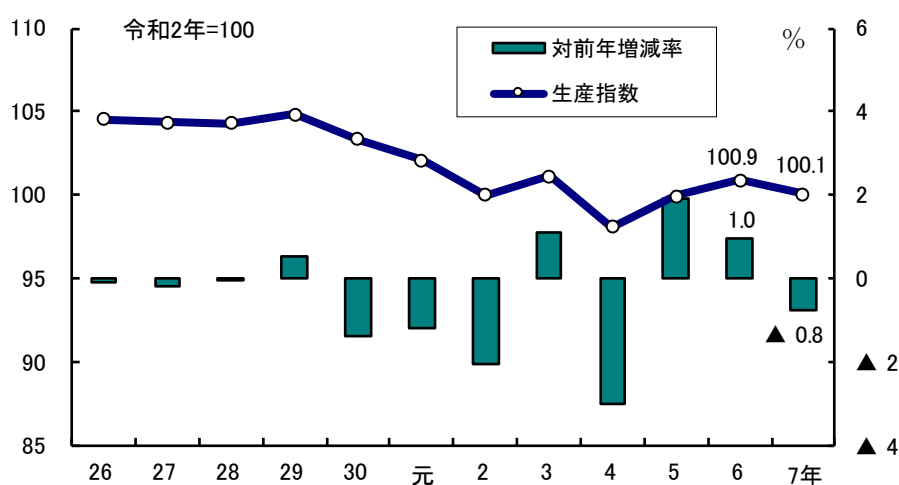
品目	年次	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
			4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
砂糖		15.8	104.2	102.5	102.7	102.0	2.4	▲ 1.6	0.2	▲ 0.7	▲ 0.7
グラニュー糖		5.0	104.2	105.8	109.2	106.9	4.8	1.5	3.2	▲ 2.1	▲ 0.7
白双糖		0.3	114.8	111.5	107.8	98.2	10.1	▲ 2.9	▲ 3.3	▲ 8.9	▲ 0.2
中双糖		0.3	93.5	86.8	81.3	73.3	3.3	▲ 7.1	▲ 6.4	▲ 9.8	▲ 0.1
上白糖		5.3	100.7	97.7	95.6	97.3	0.2	▲ 3.0	▲ 2.2	1.8	0.6
中白糖		0.0	109.3	68.5	72.2	73.5	7.0	▲ 37.3	5.4	1.8	0.0
三温糖		0.9	99.6	89.8	89.5	86.6	▲ 3.5	▲ 9.8	▲ 0.3	▲ 3.3	▲ 0.0
液糖		4.0	109.2	107.8	110.6	110.4	3.1	▲ 1.3	2.6	▲ 0.2	▲ 0.1

7 調味料

令和7年の調味料の生産指数（令和2年=100、暫定値）は100.1で、対前年比▲0.8%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、令和4年以降上昇傾向で推移していたが、7年は上昇傾向に歯止めがかかっている（図2-19）。

対前年比を品目別にみると、味噌はやや上昇し、しょうゆ等及びドレッシングはわずかに低下し、マヨネーズは前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、味噌はプラスであり、しょうゆ等、マヨネーズ及びドレッシングはマイナスであった（図2-20、表2-10）。

図2-19 調味料の生産指数の推移

味噌はやや上昇、しょうゆ等はわずかに低下

味噌の生産量は47万2千トンで、生産指数は対前年比3.3%とやや上昇した。

しょうゆ等の出荷量は97万klで、生産指数は対前年比▲1.4%とわずかに低下した。

マヨネーズは前年並み、ドレッシングはわずかに低下

マヨネーズの生産量は21万4千トンで、生産指数は対前年比▲0.9%と前年並みとなった。また、ドレッシングの生産量も18万5千トンで、生産指数は対前年比▲1.33%とわずかに低下した。

図 2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

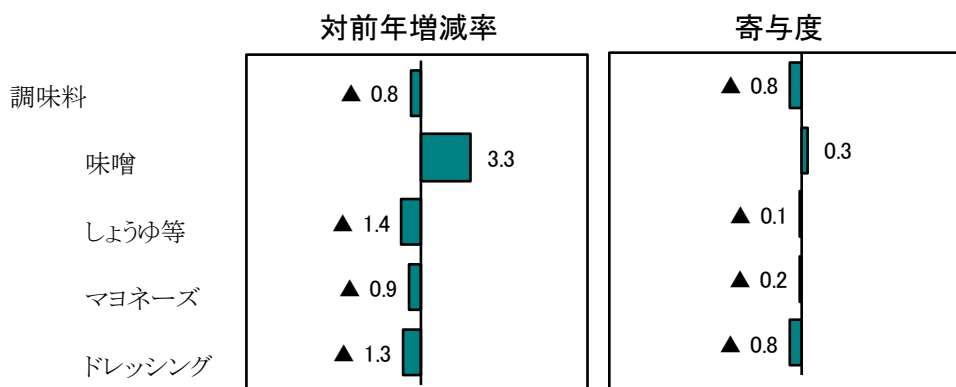


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

品目	年次	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
			4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	7年/6年
調味料		783.5	98.0	99.9	100.9	100.1	▲ 3.0	1.9	1.0	▲ 0.8	▲ 0.8
味噌		76.8	98.6	96.5	96.2	99.4	1.3	▲ 2.2	▲ 0.3	3.3	0.3
しょうゆ等		77.2	100.1	96.8	96.5	95.1	▲ 0.4	▲ 3.3	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.1
マヨネーズ		144.6	100.0	98.0	99.5	98.6	▲ 0.4	▲ 2.0	1.5	▲ 0.9	▲ 0.2
ドレッシング		484.9	97.1	101.5	102.7	101.4	▲ 4.8	4.6	1.2	▲ 1.3	▲ 0.8

8 飲料

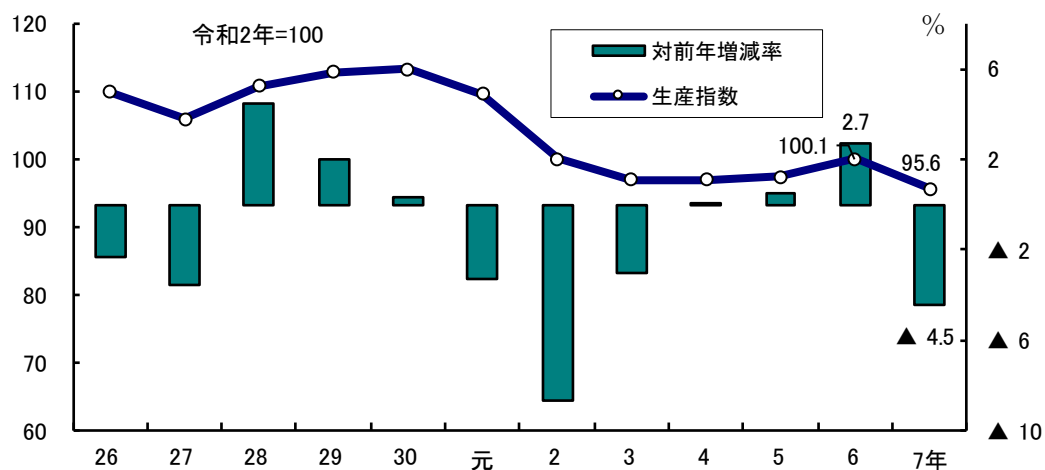
令和7年の飲料の生産指数（令和2年=100、暫定値）は95.6で、対前年比▲4.5%とやや低下した。なお、令和3年以降横ばいで推移しており、6年は上昇に転じたが7年は再び低下に転じている（図2-21）。

対前年比を品目別にみると、トマト飲料はかなりの程度上昇したが、炭酸飲料は大幅に低下した。また、果実飲料及びコーヒー・茶系飲料もわずかに低下した。

トマト飲料は、機能性のある飲料として年配層主体に需要拡大傾向にあることに加え、近年生鮮野菜等の価格高騰の影響により、一般的な野菜ジュースと比較し、安定した価格のトマトジュースの消費が伸びていると考えられる。

なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、トマト飲料はプラスであったが、炭酸飲料、果実飲料及びコーヒー・茶系飲料はマイナスであった（図2-22、表2-11）。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料は大幅に低下、果実飲料はわずかに低下

炭酸飲料の生産量は117万5千klで、生産指数は対前年比▲31.0%と大幅に低下した。果実飲料は生産量が59万8千klで、生産指数は対前年比▲2.9%とわずかに低下した。

コーヒー・茶系飲料はわずかに低下

コーヒー・茶系飲料の生産量は961万9千klで、生産指数は対前年比▲1.1%とわずかに低下した。

トマト飲料はかなりの程度上昇

トマト飲料の生産量は14万1千klで、生産指数は対前年比9.5%とかなりの程度上昇した。

図 2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

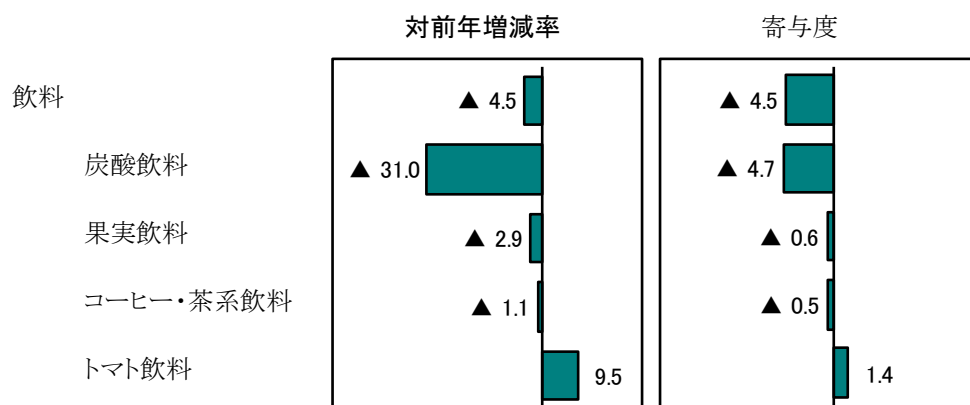


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

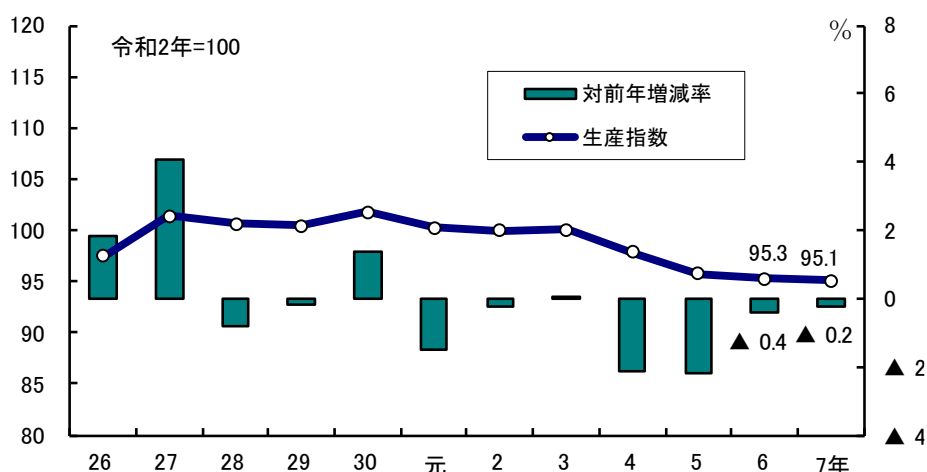
品目	年次	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度
			4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	7年/6年
飲料		990.9	97.0	97.4	100.1	95.6	0.1	0.5	2.7	▲ 4.5	▲ 4.5
炭酸飲料		177.6	88.6	87.9	84.4	58.2	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 4.0	▲ 31.0	▲ 4.7
果実飲料		200.1	93.6	92.6	100.8	97.9	0.9	▲ 1.0	8.8	▲ 2.9	▲ 0.6
コーヒー・茶系飲料		497.8	99.9	100.6	100.0	98.9	▲ 0.6	0.7	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 0.5
トマト飲料		115.3	103.2	106.8	123.2	134.9	6.0	3.5	15.3	9.5	1.4

9 菓子

令和7年の菓子の生産指数（令和2年=100、暫定値）は95.1で、対前年比▲0.2%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成27年以降横ばい傾向となっていたが、令和3年以降は減少傾向で推移している（図2-23）。

対前年比を品目別にみると、ビスケット及び米菓はいずれも対前年比で前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与については、米菓はマイナスであった（図2-24、表2-12）。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケット及び米菓はいずれも前年並み

ビスケットの生産量は24万7千トンで、生産指数は対前年比0.0%と前年並みとなった。米菓の生産量は20万2千トンで、生産指数は対前年比▲0.6%と前年並みとなった。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

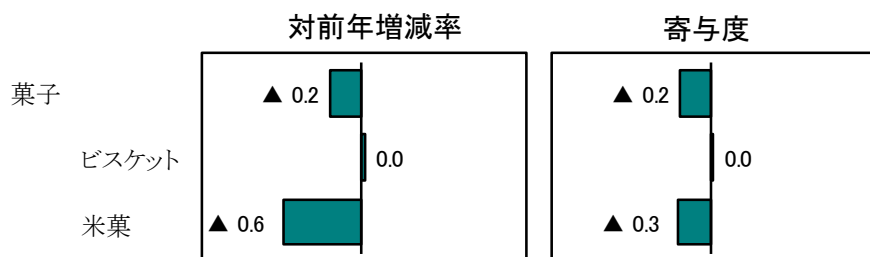


表1-12 菓子の品目別生産指数の推移

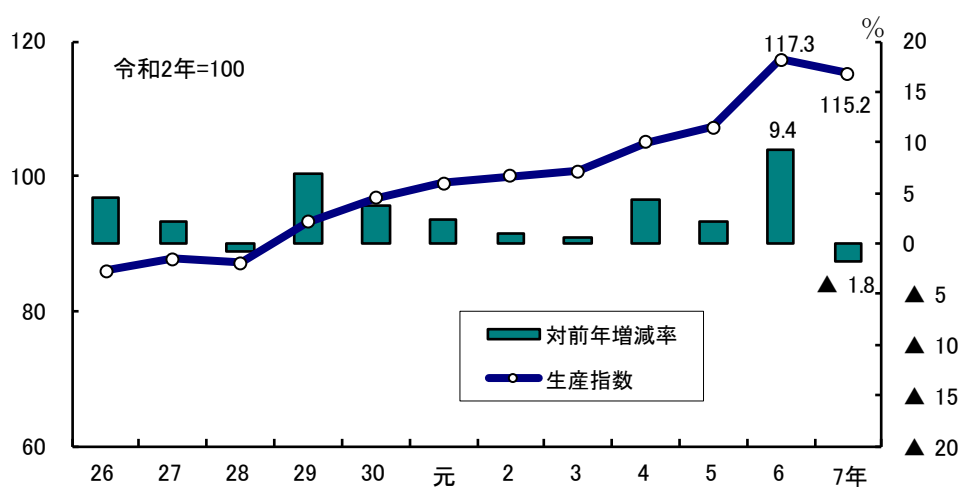
品目	年次	ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
			4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
菓子		440.7	97.9	95.7	95.3	95.1	▲2.1	▲2.2	▲0.4	▲0.2	▲0.2
ビスケット		246.8	98.7	97.9	97.5	97.6	▲3.0	▲0.8	▲0.4	0.0	0.0
米菓		193.9	96.8	92.9	92.5	91.9	▲1.0	▲4.0	▲0.5	▲0.6	▲0.3

10 調理食品

令和7年の調理食品の生産指数（令和2年=100、暫定値）は115.2で、対前年比▲1.8%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、平成23年の東日本大震災以降、備蓄需要の高まりや簡便化志向のニーズから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いてきていたが、令和7年は低下に転じた（図2-25）。

対前年比を品目別にみると、加工米飯は前年並みとなった。一方、調理缶・レトルトパウチはかなり大きく低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、調理缶・レトルトパウチはマイナスであった（図2-26、表2-13）。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯は前年並み

加工米飯の生産量は47万2千トンで、生産指数は対前年比0.0%と前年並みとなった。加工米飯のうち、無菌包装米飯については、令和7年後半には、原料米の高騰を受けた大手メーカーの商品数縮小等により、生産量の前年同月比は減少で推移した。また、冷凍米飯も同様に令和7年後半は生産量が減少傾向で推移したが、12月は増加に転じた。その背景として、かつての冷凍食品より格段においしくなったことや、具材とワンプレートの形態で食事ができること等、消費者への訴求効果が高まったことが考えられる。

カレーは大幅に低下、その他の調理食品はかなり大きく低下

調理缶・レトルトパウチの生産量は45万1千トンで、生産指数は対前年比▲15.1%とかなり大きく低下した。内訳についてみると、カレーの生産量は12万9千トンで、生産指数は対前年比▲21.5%と大幅に低下した。また、その他の調理食品の生産量は32万2千トンで、生産指数は対前年比▲12.2%とかなり大きく低下した。

図 2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

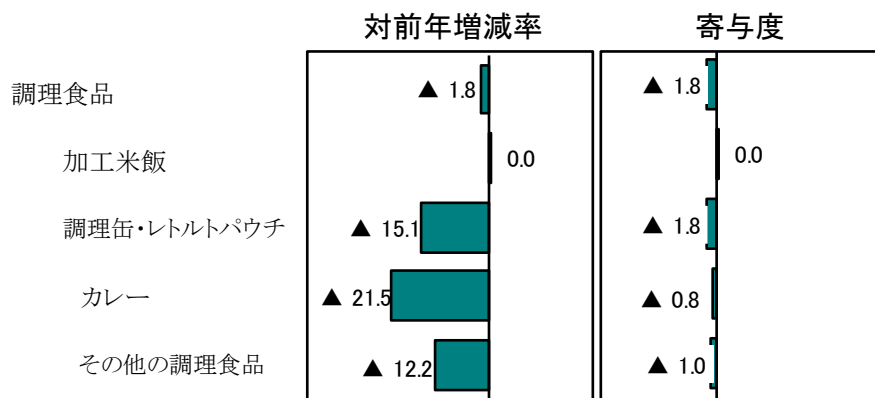


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
調理食品	1,166.4	105.0	107.2	117.3	115.2	4.3	2.1	9.4	▲ 1.8	▲ 1.8
加工米飯	1,035.3	106.0	108.7	116.6	116.6	4.9	2.6	7.2	0.0	0.0
調理缶・レトルトパウチ	131.1	97.0	95.3	122.7	104.1	▲ 0.6	▲ 1.7	28.7	▲ 15.1	▲ 1.8
カレー	50.9	95.5	91.1	97.9	76.8	▲ 1.5	▲ 4.6	7.5	▲ 21.5	▲ 0.8
その他の調理食品	80.2	97.9	98.0	138.4	121.5	▲ 0.0	0.0	41.2	▲ 12.2	▲ 1.0

11 酒類

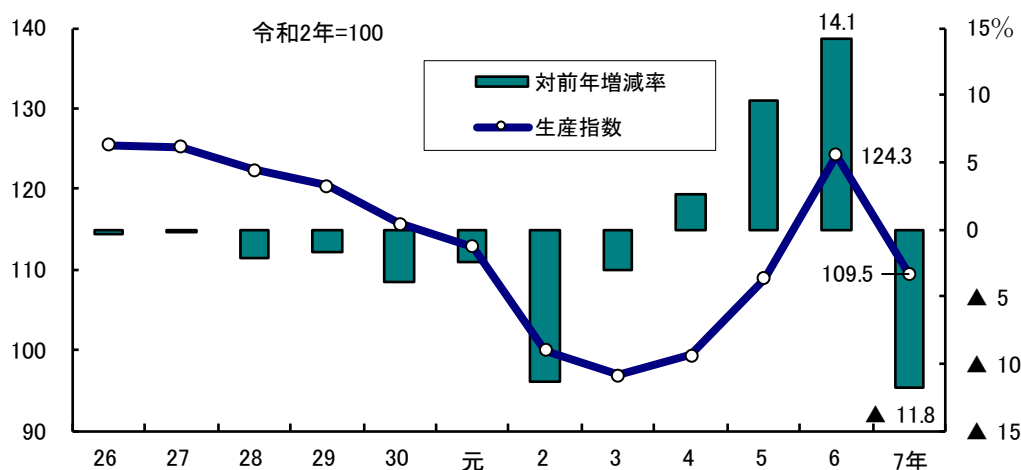
令和7年の酒類の生産指数（令和2年=100、一部推定を含む暫定値）は109.5で、対前年比▲11.8%とかなり大きく低下した（図2-27）。

これは令和7年9月末以降大手メーカーによる酒類の出荷停止の影響によるものと考えられる。

対前年比を品目別にみると、対前年比が上昇しているのはみりんのみでやや上昇した。一方、ビール、ウイスキー及び雑酒は対前年比でかなり大きく低下し、清酒、合成清酒、焼酎及びブランデーが対前年比でかなりの程度低下し、リキュールはやや低下し、果実酒がわずかに低下した。また、スピリッツは前年並みとなった。

なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、清酒、焼酎、ビール、果実酒、ウイスキー、リキュール及び雑酒はマイナスであった（図2-28、表2-14）。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはかなり大きく低下

ビールの出荷量（1～11月）は186万4千klで、生産指数は対前年比▲13.8とかなり大きく低下した。

焼酎はかなりの程度低下、ウイスキーはかなり大きく低下

焼酎の出荷量（1～11月）は53万1千klで、生産指数は対前年比▲6.7%とかなりの程度低下した。また、ウイスキーについても出荷量（1～11月）が14万3千klで、生産指数は対前年比▲11.4%とかなり大きく低下した。

スピリッツは前年並み、リキュールはやや低下

スピリッツの出荷量（1～11月）は101万6千klで、生産指数は対前年比▲0.3%と前年並みとなった。一方、リキュールの出荷量（1～11月）は72万7千klで、生産指数は対前年比▲5.9%とやや低下した。

図 2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

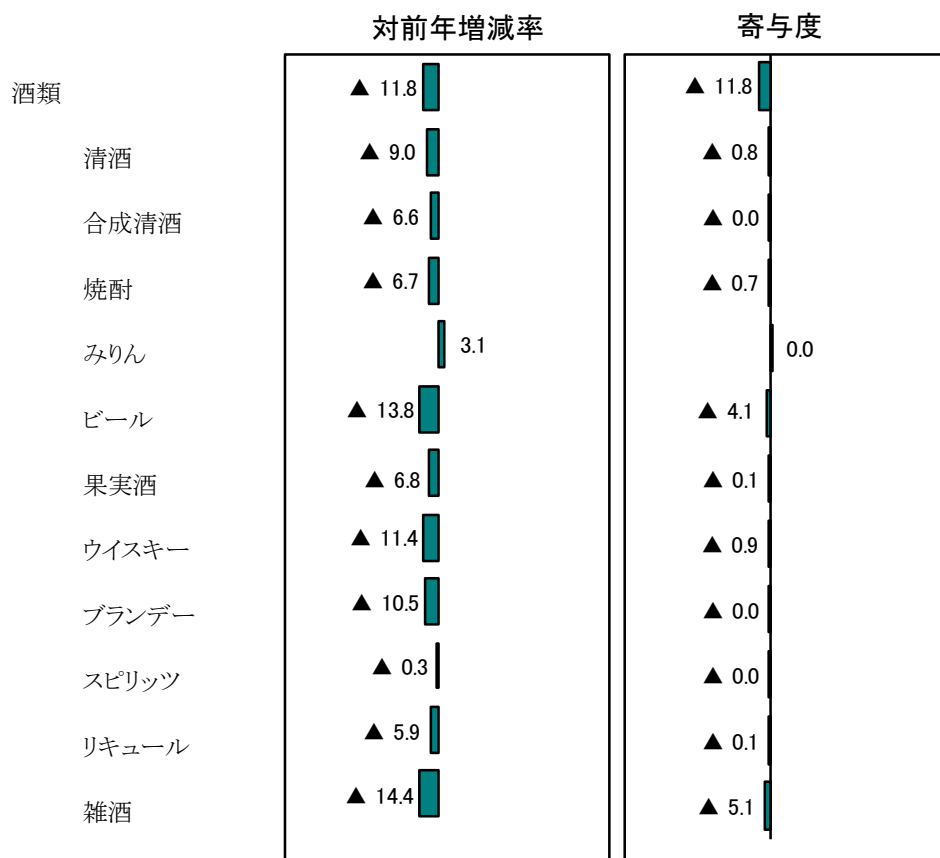


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウエイト (令和2年)	指数 (令和2年=100)				対前年増減率 (%)				寄与度 7年/6年
		4年	5年	6年	7年	4年	5年	6年	7年	
酒類	1,553.9	99.3	108.9	124.3	109.5	2.5	9.6	14.1	▲ 11.8	▲ 11.8
清酒	195.0	88.8	101.1	90.2	82.1	▲ 8.1	13.9	▲ 10.8	▲ 9.0	▲ 0.8
合成清酒	3.5	94.7	91.3	88.0	82.2	3.3	▲ 3.6	▲ 3.6	▲ 6.6	▲ 0.0
焼酎	239.6	94.8	90.2	87.0	81.1	0.8	▲ 4.8	▲ 3.6	▲ 6.7	▲ 0.7
みりん	15.8	104.7	100.5	101.5	104.6	3.2	▲ 4.0	1.0	3.1	0.0
ビール	449.6	114.6	123.1	128.1	110.4	13.4	7.5	4.0	▲ 13.8	▲ 4.1
果実酒	33.2	86.6	87.7	81.7	80.2	▲ 7.7	1.3	▲ 6.8	▲ 1.8	▲ 0.1
ウイスキー	126.2	106.6	119.7	126.3	112.0	14.1	12.3	5.5	▲ 11.4	▲ 0.9
ブランデー	0.1	101.5	93.7	90.0	80.6	5.9	▲ 7.7	▲ 3.9	▲ 10.5	▲ 0.0
スピリッツ	38.1	110.5	114.6	124.9	124.5	▲ 1.1	3.7	9.0	▲ 0.3	▲ 0.0
リキュール	110.1	88.7	71.1	32.8	30.8	▲ 4.6	▲ 19.8	▲ 53.9	▲ 5.9	▲ 0.1
雑酒	342.7	89.1	117.7	198.7	170.0	▲ 5.9	32.2	68.8	▲ 14.4	▲ 5.1

(参考) 主要品目の生産量の推移 (平成 26 年～令和 7 年)

